

73

少判官 厚意謝スルニ堪ヘズト雖ドモ追々時刻モ押移レバ請フ辭シテ
退出セント遂ニ歸館ス頓テ彼兩大臣趨走我館ニ就キ我兩大臣ニ接シ頻
リニ使事ノ結局既ニ近キニ在ル旨ヲ説キ四五日間其出發ヲ見合サン事
ヲ請フ兩大臣聽カズ應接ノ次第ハ別紙ニ詳カナリ
午後一時過大臣文武隨員ヲ率ヒ儀仗兵ニ護セラレ公館ヲ發ス副大臣宮本
野村小牧鈴木ハ尙ホ止ツテ該府ニ在リ午後三時大臣哨舟ニ駕シ鎮海門ヲ
發ス外ニ哨舟三隻護送ノ海兵三十名及ビ若干ノ携帶品ヲ載セテ隨フ日進
艦附屬ノ汽艇之ヲ曳ク時正ニ起潮ニ際シ航行頗ル遲緩ナリシガ遂ニ六時
三十分ニ至リ一統本船ニ安着ス

○談判第五日記事

二月二十二日黒田大臣井上副大臣將ニ本艦ニ歸ラントシ理裝既ニ了
ル午前十一時三十分接見大官申榎副官ヲ滋承我公館ニ就キ談判浦瀬
裕通話宮本小一野村靖鈴木大亮陪坐

申

本日歸駕ヲ命セラレタル旨貴隨員安田ヲ以テ報セラレ驚愕爲サン所
ヲ知ラス只管歸程ヲ緩フセラレン事ヲ乞フ爲ニ參館イタセリ

大臣

殊ニ高趾ヲ勞セラレ感荷ニ堪ヘス然ルニ前日來會商ヲ經タル件中追々
齟齬ヲ生シタル事アリ熟之ヲ察スルニ遂ニ修好ノ目的ヲ達スル能ハサ
ル可シ故ニ遽ニ歸艦ニ決意シタリ本大臣自ラ貴寓ニ抵リ別ヲ告クヘキ

答ナレトモ潮候ノ都合アリ時限已ニ迫レリ請フ此ヨリ辭別セン
申
尹

日來會商ノ件殆ント順便ニ就ク今ニシテ歸ラルルハ本大臣等實ニ遣
憾ニ耐ヘス今ヨリ五日間ノ猶豫ヲ賜ラハ實ニ無限ノ大幸ナリ

大臣

修好ハ彼我人民ノ安危ニ關スル兩國政府ノ重大事件ナリ速ニ順成ノ效
ヲ奏セサル可ラザルハ頃日以來幾回モ辨論セリ然レトモ今マ仍ホ其結
果ヲ得ルノ目的ヲシ故ニ本日歸船ノ事ニ決シタリ

申

昨夜吳慶錫京城ヨリ歸レリ其報ニ依レハ今般ノ事廟議皆順成ニ就ケ
リト想フニ條約案ヲ清書スル迄ナリ猶又直ニ同人ヲ上京セシメ廷議

ヲ促カスヘシ故ニ四五日間ノ猶豫ハ是非共許諾セラレタシ

大臣

此次會商スル所ノ事順成ニ至ラサレハ兩國ノ舊好三百年ノ久アルモ一
朝之ヲ塗泥ニ委スルノミナラス繼クニ干戈ヲ以テスルナキヲ保スル能
ハス是本大臣ノ深ク憂フル所ナリ貴國和好ノ議アル果シテ貴大臣ノ言
ノ如クナラハ順成ノ功期ヲ刻シテ俟ツヘシ然ラハ姑ラク解纜ヲ駐メ明
日ヨリ四日間船中ニ在テ決答ヲ俟タン委細ハ副大臣ヨリ申述スヘシ本
大臣出發前ニ辨スヘキ急務アリ請フ此ヨリ辭別セン

黒田大臣乃チ辭シテ出ツ

副大臣

既ニ黒田大臣ノ言ノ如ク此回ノ議ハ容易ニ協成シ難カルヘシ何ントナ

レハ貴國政府ヨリ交付セラルヘキ謝辭ノ草案ヲ見ルニ語氣辨解ニ涉リ
 謝辭ノ實ナシ加フルニ過日既ニ我意ヲ領セラレタル雲揚艦ノ件ニ至テ
 ハ案中一言此ニ及フナシ且前日來我隨員中へ協議セラレシ件々兎角齟
 齬ノ事多ク殊ニ吳慶錫玄昔運ニ訓導ノ寫取シタル條約案其結尾ニ朝鮮
 國王御名印トアルヲ濫リニ朝鮮國王御寶ト寫シ替フ此事ハ昨日已ニ森
 山鈴木ヲシテ辨セシメタリ貴大臣又御批交換ノ事六ヶ月ノ後ト約セシ
 ナト申サレシ由皆齟齬ノ甚シキ者ト謂フヘシ故ニ寧ロ在再日ヲ度ラン
 ヨリハ辭決書ヲ送り速ニ發艦セントシ案既ニ成レリ今貴大臣ノ懇請ニ
 仍リ明日ヨリ四日間ノ猶豫ヲ約スト雖トモ若シ期ヲ愆クレハ直ニ拔錨
 スヘシ尤モ隨員二三名ヲ此ニ駐留セシメ以テ報知ニ便ニス委情ハ就テ
 商議セラルヘシ本大臣等既ニ數回ノ談判ニ於テ盡ク心情ヲ吐露セリ今

日ニ及テハ別ニ議スヘキノ件ナシ若シ條約順成ニ至ルノ運ニ會セハ再
 ヒ來リテ協辦セントス
 申

貴隨員宮本野村ヨリ商議セラレシ件々奏聞ノ爲メニ訓導ヲ至急ニ上
 京致サスヘシ仍テハ不日ニ貴意ヲ安スルヲ得ヘシ貴大臣今日ノ發軔
 ハ強テ止ムルヲ得スト雖モ四日間ニハ必ス順成ヲ期ス可シ其時間ハ
 必ス貴艦ニ在テ待タレン事ヲ懇請ス

副大臣

然ラハ此ヨリ辭別セン兩國ノ和平ヲ破リ彼我ノ人民不測ノ殘害ニ罹ル
 等ノ事萬一モ之ナキヲ希望ス猶詳細ノ事ハ宮本等ノ注意モアルヘシ篤
 ト熟議セラルヘシ



申

事全ク順成シ貴兩大臣再ヒ上陸アルノ期ヲ待ツテ面晤ヲ得ヘシ
右畢テ申尹歸ル即時黒田大臣儀仗兵ヲ率ヒ公館ヲ發ス井上副大臣ハ潛
カニ館中ニ留ル

73

○條約調印當日ノ記事

明治九年二月二十七日

二月二十五日申樓宮本小一野村靖ニ報シテ曰ク吳慶錫玄昔運京師ヨ
リ歸ル條約并謝辭共ニ貴大臣ノ商ル所ニ從ヒ異議アルナシ當ニ二十
七日ニ於テ交換スヘシト乃チ之ヲ大臣ニ報ス(時ニ副大臣猶留テ府
ニ在リ)二十六日大臣頂山島ヲ發シ再ヒ府ニ入ル二十七日鍊武堂ニ
於テ兩大臣申尹ト會同條約鈐印アリ

大臣

此御批ニ朝鮮國主上トアルハ前日ノ約ニ反ス是何故ナルヤ既ニ條約互
換ノ際ニ臨ミ斯齟齬ヲ致スハ誠ニ解シ難シ
申